

## 小児看護学実習で学生が受け持ち児に実施した食育の効果的方法と改善点の考察

渡邊叶子<sup>1)</sup>、松井由美子<sup>2)</sup>、坪川麻樹子<sup>2)</sup>

- 1) 新潟医療福祉大学 看護学科 4年生  
2) 新潟医療福祉大学 看護学科

【背景・目的】近年食生活の変化から生活習慣病の若年化がみられ子どもに対しての食育の重要性が注目されている。私が小児看護学実習で受け持った患児は川崎病で入院した5歳の女児で、野菜嫌いであり野菜に対しての関心も薄かった。患児は川崎病のために、全身の血管の炎症がみられ、動脈硬化になるリスクが高いためバランスの良い食事を心がけた生活習慣の確立が必要であった。本研究では、学生が小児看護学実習で受持った患児に、遊びを通して実施した食育について振り返り、発達と食育の2つの視点から食育の効果的な方法や改善点について考察したので報告する。

### 【方法】研究デザイン：事例研究

研究期間：平成28年1月25日～29日（5日間）

研究対象：小児看護学実習で受持った5歳児Aさん

研究方法：実習で実施した食育に関してAさんと家族の反応を記述し、その効果と改善点について文献をもとに発達と食育の2つの視点から考察する。

倫理的配慮：実施した食育は事前に保護者や、受け持ち看護師、教員の承諾を得て行い、個人の特定ができないよう最大限注意し個人情報流出・漏えいがないよう配慮した。食育の定義：生きる上での基本であって、知育・道徳・体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることである（内閣府）

### 【結果】

#### 1. 事例紹介

##### 1) 基本情報

＜Aさん、5歳、女児、川崎病＞

家族構成：両親、兄の4人家族 付き添いは母親

治療方法：ガンマグロブリン大量点的療法、アスピリン内服（途中フロベンに変更）、ステロイド併用

川崎病の症状：①高熱、②不定形型発熱、③両側眼球結膜炎、④頸部リンパ節腫脹ありイチゴ舌なし

心エコー：冠動脈流なし

受持ち時には症状は改善し、回復に向かっていた

食事：病院食は1～3割程度の摂取、好き嫌が多い  
野菜はよく残し、唐揚げやお菓子、果物が好物

##### 2) 食育の実際

時間：平成28年1月29日（実習5日目）11時から

場所：Aさんのベッド上（大部屋だが患児一人のみ）

内容：患児の状態は安定していることを確認し、バイタルサイン測定の後、患児と母親に了承を得て実施し

た。学生が画用紙で作成した動物の絵と野菜のカード（写真1）を用いて動物の前に野菜を置いてもらい「動物に食べてもらいましょう」と説明した。実施中は患児

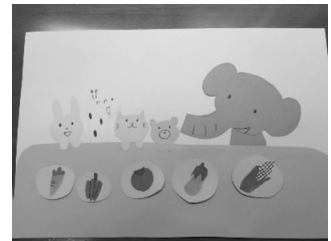


写真1. 動物の絵と野菜カード

自身が野菜を選んでもらえるような問いかけをするように心掛けすべての動物に対し野菜を配り終えたら患児に感謝のべ絵とカードをプレゼントした。患児の好きな動物を吟味し患児が苦手な野菜を選択使用した。

### 【考察】1. 発達の視点から

Aさんの主観的・客観的情報から学生が興味を持って食育の説明を聞いてくれたことがわかった。二宮らは「幼児期で4～5歳になると仲間との情緒的・社会的交流が盛んになり、遊びを通して、身体的・情緒的・社会的な発達を遂げ、生活能力のすべてを獲得していく」<sup>1)</sup>と述べている。Aさんに対して学生と共同での遊びを取り入れたことで発達が促進された。また大竹らは「5歳児、6歳児に対して遊びを提供する際のポイントとしては作りたいという意欲が出るように、あらかじめ興味ができるものを置いておくこと」<sup>2)</sup>と述べている。紙媒体を用いた食育はAさんにとって視覚的な刺激が生じ、好きな動物を用いたことで興味を持たせ、創作意欲を引き出した。しかし食育終了後に患児が野菜に対する興味・関心を抱いたかは不明である。

### 2. 食育の視点から

白木は「保護者自身の食生活が家庭における食育へも大きく影響を及ぼすと考えられる。」<sup>3)</sup>と述べている。患児の保護者である母親も共に考えてもらうことで食生活を見直すきっかけとなることが期待できる。今回は母親からの児の家庭での食生活に関する情報収集が不十分であったことは反省点であった。また、専門職連携の観点から栄養士への相談やアドバイスを得られるとよかったのではないかと考える。

### 【結論】

1. 児の発達段階を考慮した食育が大切である。
2. 視覚刺激を与えることや、患児の好きな遊びを取り入れると患児の創作意欲を引き出せ効果的である。
3. 食育は保護者も対象とし、事前の家庭における食生活の情報収集が重要である。

### 【文献】

- 1) 二宮圭子, 今野美紀. 小児看護概論 子どもと家族に寄り添う援助. 南江堂, 121, 2011.
- 2) 大竹節子, 塩谷香. 0～5歳児の発達と保育の環境がわかる本. ひかりのくに株式会社, 74-81, 2012.
- 3) 白木裕子. 幼児をもつ保護者の食生活と食育への取り組みとの関連. 日本小児看護学会誌. Vol.21(3), 2, 2012.